

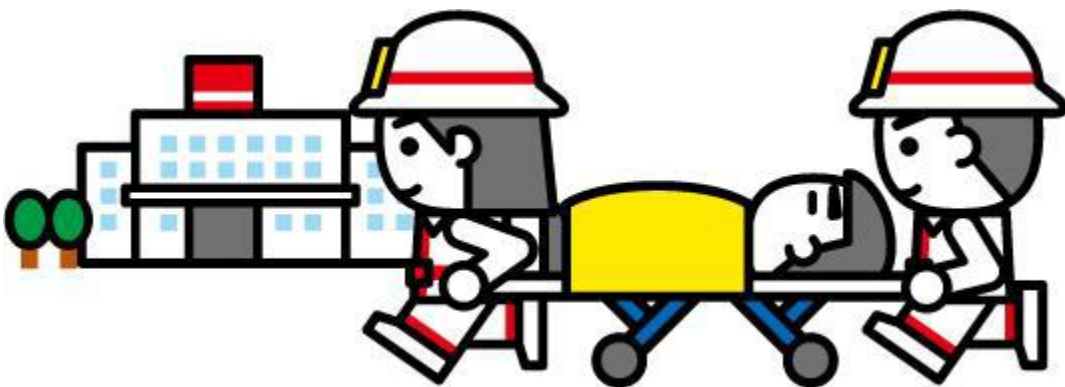
# 高齢者福祉施設等における 救急ガイドブック



海津市消防本部 救急指令課

# もくじ

1	はじめに	・・・P 2
2	救急概要	・・・P 3
3	施設内での予防救急	・・・P 7
4	救急要請時対応ガイド	・・・P12
5	救急要請のポイント	・・・P13
6	救急連絡シート	・・・P14
7	さいごに	・・・P18



# はじめに

海津市の平成27年の救急件数は1,871件で、昨年より113件増加し過去最多を更新しました。

年齢別搬送人員では、高齢者が1,062人で全体の58.8%を占めており、海津市の高齢者率約29%と対比しても高い救急出場傾向にあります。

また、高齢者福祉施設等(以下「施設」といいます。)からの救急要請も増加しており、入所者の急病や施設内での転倒事故等に起因した救急要請が多く見受けられます。

高齢者の方は、少しの病気やケガ等で、重症化する恐れがあります。

実際に救急車で搬送させていただいた事例の中には、少しの注意や事前の対策があれば、未然に病気やケガを防げたかもしれないものがあります。

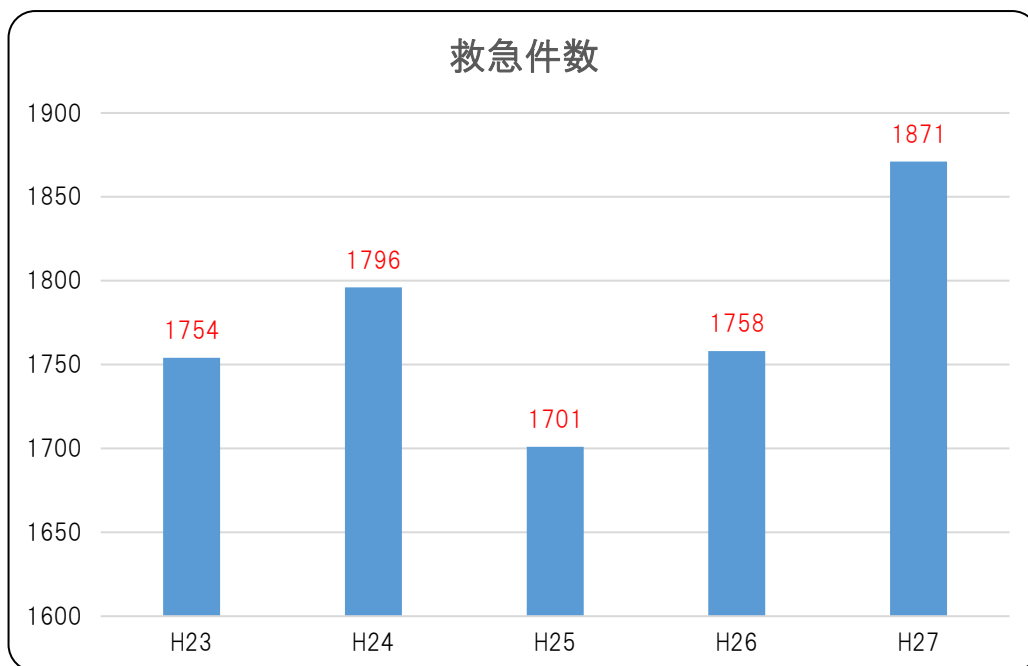
少しの注意や事前の対策で、救急車が必要になるような病気やケガを防ぐことを「予防救急」といいます。

この『救急ガイドブック』には、施設内でできる「予防救急」のポイントをご紹介しますとともに、もしものときの救急要請時の対応や救急要請のポイントも記させていただきました。施設の皆さまと救急隊が円滑な連携が行えるように、この『救急ガイドブック』をご活用いただければ嬉しく思います。

# 救急概要

海津市の救急の概要と、施設からの救急要請の概要について、ご紹介します。

海津市の救急件数の過去5年分をグラフに表すと以下の通りとなり、一時的には減少した年がみられますが、概ね増加傾向であります。

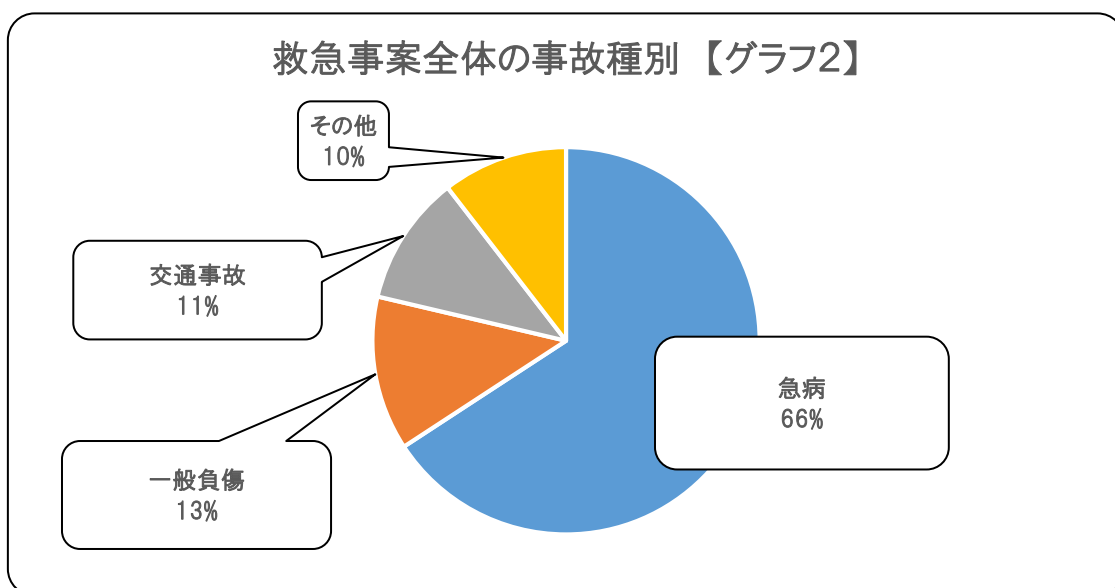
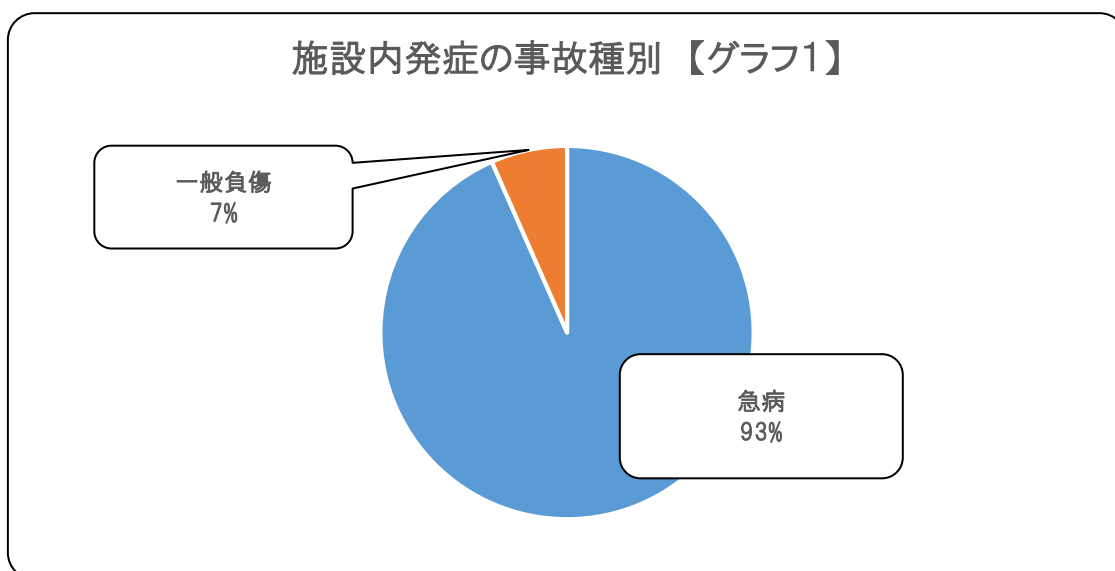


平成27年中の救急出場件数1871件のうち、約5.7%にあたる106件が施設からの救急要請でありました。

また、救急事故の分類としては、交通事故、労働災害、加害、

自損行為、急病、一般負傷などがありますが、平成27年の施設における救急要請の理由は急病と一般負傷であり、中でも急病が9割を占めています。【グラフ1参照】

(一般負傷とは、歩行中の転倒やベッドからの転落などの不慮の事故、食べ物などの窒息事故などのことをいいます。)



急病の詳細を見てみると、肺炎、呼吸不全、脳梗塞、脳出血、心不全など緊急度も重症度も高い疾患が目立ちました。一般負傷については、高齢者に特有な大腿骨頸部骨折など入院を要するものや、誤嚥や窒息など緊急性の高い事故も含まれています。

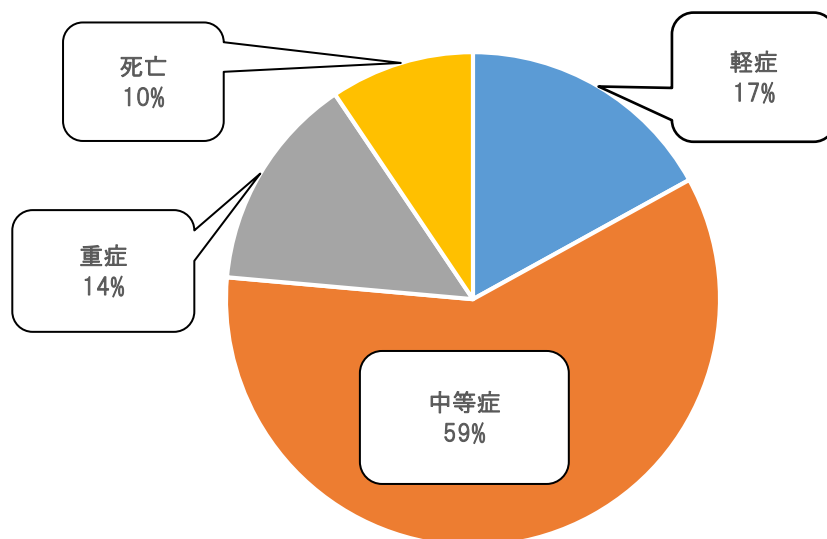
平成27年の施設内発症の傷病程度別を見てみると、入院を必要としない軽症は17%、3週間未満の入院が必要な中等症が59%、3週間以上の入院が必要な重症が14%、死亡が10%となりました。【グラフ3参照】

救急事案全体の傷病程度別では、軽症が59%、中等症が27%、重症が10%、死亡が4%となっています。【グラフ4参照】

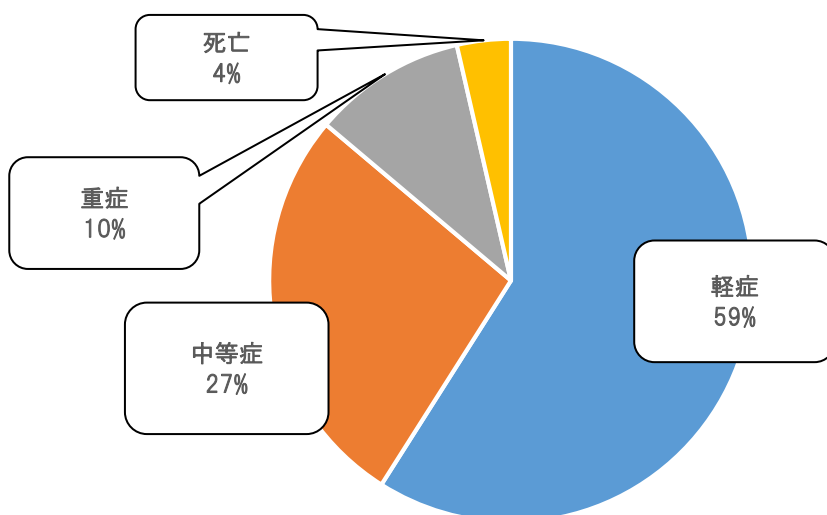
施設から救急要請があった場合、他の救急事案と比較すると中等症以上の占める割合が高いことが分かりました。

施設での救急事案は他と比べて重症度が高いため、早急な病院搬送が必要になります。傷病者の情報をより早く、確実に把握するため、施設側と救急隊がスムーズな連携を実施することが大切です。また、重症度の高い救急事案が多いため、質の高い応急手当を身につけておく必要があります。救急隊が到着するまでの応急処置も重要になってきます。

施設内発症の傷病程度別【グラフ3】



救急事案全体の傷病程度別【グラフ4】



# 施設内での予防救急

救急搬送事例からみえてきた、施設内でできる「予防救急」のポイントをご紹介します。

## 1 手洗い・うがいの励行

インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が発生、拡大しないように、職員の皆さまだけでなく、入所者全員の手洗い・うがいを徹底してください。



また、感染の経路（接触・飛沫・空気など）や、嘔吐物などの正しい処理の方法など、感染予防対策を知ることによって、施設内での二次感染を防ぐことができます。

## 2 転倒・転落防止

高齢者の方は、普段生活していて慣れている場所でも、小さな段差でつまずいてしまい、骨折を伴う重症となってしまうことがあります。施設内での段差や滑りやすい場所などの危険個所に注意するとともに、整理・整頓を心掛け、廊下や部屋の明るさにも注意してください。



### 3 処方薬の副作用を確認

処方薬によっては、副作用で思った以上にふらついてしまい、ベッドから起き上がる時など、転倒・転落してしまうことがあります。処方薬の副作用を確認し、特に処方薬が変わった時や、処方薬の量が増えた時などは、服用後の様態変化に注意してください。

### 4 誤嚥・窒息の予防

特に脳梗塞や神経疾患の既往のある高齢者の方は、嚥下運動が障害され、飲み込みにくくなっていることや、咳をしづらくなっていることもあり、誤嚥や窒息を生じやすくなっています。

ゼリーや大きな肉はもちろん、飲み込みにくいパンなどでも、窒息事故が起きています。小さく切って食べやすい大きさにしたり、ゆっくりと食事に集中できるような環境をつくり、適宜、施設職員の方が食事の様子を見守るなど、注意がけをお願いします。もしも、食事中にむせるなどの症状があった場合は、食事後の様態変化に注意しましょう。



## 5 温度変化に注意

高齢者の方は、温度調節機能が低下し、のどの渴きも感じにくくなっています。

夏季は「熱中症」、冬季は「ヒートショック」などによる救急事故が増える時期となります。



居室やリビングだけでなく、施設内のお風呂場やトイレ、廊下などの温度変化にも注意し、急激な温度変化を作らない環境づくりを心掛けましょう。

## 6 生活状況の記録

施設職員の皆さまは、入所者の方の普段の生活状況についてよく知っています。

毎日の状況や様子を記録し、いざという時のために、職員の皆さまが入所者の方の状況を把握できるような記録を作成してください。

また、救急要請に必要な情報『救急連絡シート（P14）』の作成にご協力をお願いします。

## 7 病院との連絡体制の構築

入所者ごとに、かかりつけ医師や協力病院との連絡を密にし、健康管理だけでなく、容態変化したときに相談・受診できる体制を作りましょう。症状が発症した場合には、早めに医療機関を受診する体制を構築してください。また、症状が悪化する前に受診することや、夜間・休日で職員が少なくなる前の、早めの対応をお願いいたします。

## 8 事故発生時の対応

事故防止に努めていても、緊急事態が起こらないとは限りません。いざというときに慌てないために、施設内で、各職員がどのように行動したらよいのか、話し合ってください。特に休日・夜間など、少ない人数で対応しなければいけない時に、どのように行動したらよいのか検討しておいてください。

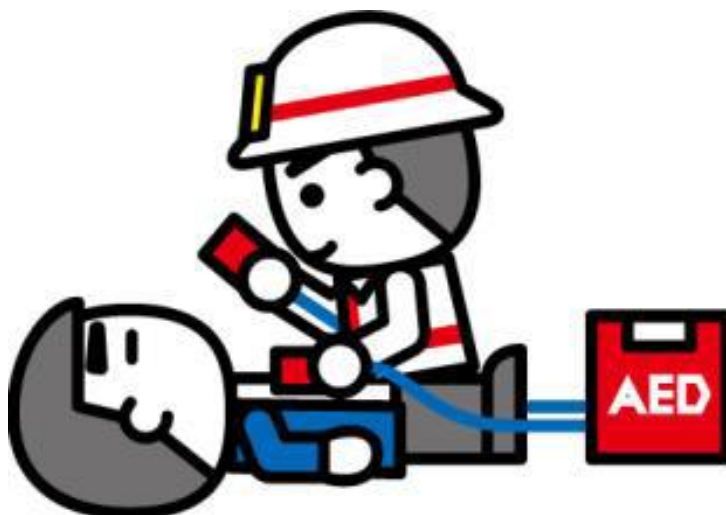
緊急時に使用する資器材（AED、救急バック等）の設置状況についても、事前に確認しておいてください。

## 9 応急手当の習得と実施

入所者の方が生命の危険にさらされたとき、最初に気付くのは施設職員の皆さまです。

消防署では、いざというときのための応急手当を学ぶ「救命講習会」を開催しています。

ぜひ、いざというときのために、応急手当を身につけましょう。



# 救急要請時対応ガイド

## 緊急事態 発生！！

- 施設内に知らせ、職員を集めましょう
- 集まった職員に指示してください
- 傷病者に応急手当を実施してください

## 119番通報！！

- 住所・施設名・電話番号
- いつ？ だれが？ どこで？ どうした？
- 傷病者の今の状況（反応がない・呼吸がないなど）
- 今、実施している応急手当

## 救急隊到着！ 救急隊の誘導をお願いします。

- 玄関等のかぎを開けてください
- 傷病者の今の状況を伝えてください
- 傷病者のそばまで誘導してください

**意識や呼吸がない場合**  
救急活動の支援のため消防隊も駆けつけます。

## 傷病者の付添いをお願いします！！

- 病院への申し送りが必要です
- 傷病者の状況が分かる方が救急車に同乗してください
- カルテ等の申し送りに必要なものを持参してください

※ 付添いができない場合などは、傷病者の必要な情報（「救急連絡シート（P14）」の内容）を、できるだけ詳しく救急隊へ伝えてください

# 救急要請のポイント

## 1 施設内での対応

- (1) 緊急事態が発生したことを、施設内職員へ知らせてください
- (2) 緊急事態が起こった場所に、職員を集めてください
- (3) 集まった職員の役割を分担してください
  - ア 119番通報
  - イ 傷病者への応急手当
  - ウ 関係者への連絡（家族・施設関係者など）
  - エ 救急車の誘導と、救急隊を傷病者のところへ案内してください
  - オ 何が起こったのか、どんな応急処置をしたのか説明してください
  - カ 『救急連絡シート(P14)』などの傷病者の必要な情報を、救急隊へ伝達してください

## 2 協力病院への連絡と搬送病院の確保

- (1) 状況に応じて、協力病院やかかりつけ医師に連絡してください
- (2) あらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合は、当該医療機関へ搬送します
  - ※ 緊急度・重症度により、搬送医療機関が異なる場合もあります

## 3 施設職員の同乗

- (1) 医療機関への申し送りが必要です
- (2) 看護記録・介護記録・カルテ等を持参してください

## 4 D N A R（蘇生処置拒否）の意思表示

- (1) 傷病者や家族からD N A R（蘇生処置拒否）の意思表示（書面等）がある場合は、あらかじめ協力病院やかかりつけ医師に相談してください
- (2) D N A Rの意思表示があった場合でも、救急隊はかかりつけ医師からの指示を得るまでは、応急処置をせずに医療機関へ搬送することはできません  
救急隊の活動にご理解とご協力をお願いします

救急連絡シート			施設名		
			住所		
			TEL		
作成日	平成 年 月 日	作成者	本人・家族・施設職員(氏名 )		
◆本人情報					
住所					
ふりがな 氏名				性別	男・女
生年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	年齢 歳		(平成 年 月 日現在)	
連絡先 電話番号					
◆医療情報					
現在治療中の病気					
過去に医師から 言われた病気					
服用している薬					
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	主治医氏名(診療科目)		緊急時連絡先	
◆普段の生活					
介護区分		歩 行	寝たきり ・ 車椅子 ・ 補助歩行 ・ 自力歩行		
会 話	可 ・ 不可	食 事	経 口 ・ 介助経口 ・ その他( )		
◆緊急時連絡先					
氏 名	続 柄	住 所	電話番号		
※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。					
※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡します。					
<b>時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。</b>					

# 救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

※状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ…

どこで…

何をしているとき…

どうなった…

直近のバイタルサイン		測定時間		時	分
意識	<input type="checkbox"/> 清明	声掛けに反応	: <input type="checkbox"/> 有	・ <input type="checkbox"/> 無	JCS( )
呼吸数		回/分	脈拍数		回/分
血圧	/	mmHg	体温		°C
SpO2		%	瞳孔	R: mm( )	L: mm( )

現在、実施した処置・薬剤など

その他、救急隊に伝えたいこと(DNARの話し合い等)



【記入例】

<h1>救急連絡シート</h1>		施設名	かいづ〇〇施設
		住所	海津市〇〇町△△
		TEL	0584-〇〇-△△△△
作成日	平成28年 9月11日	作成者	本人・家族・施設職員(氏名)

◆本人情報

住所	海津市〇〇町△△ □□番地		
ふりがな 氏名	かいづ たろう 海津 太郎	性別	男 <input checked="" type="radio"/> 女 <input type="radio"/>
生年月日	明治・大正 <input checked="" type="radio"/> 昭和・平成 9年 9月 9日	年齢	82歳 (平成28年 9月 9日現在)
連絡先 電話番号	0584-〇〇-△△△△(自宅)    090-××××-□□□□(携帯電話)		

◆医療情報

現在治療中の病気	高血圧、糖尿病		
過去に医師から 言われた病気	脳梗塞、心筋梗塞		
服用している薬	降圧剤、糖尿病薬、ワーファリン		
かかりつけ 又は 協力医療機関等	医療機関名	主治医氏名(診療科目)	緊急時連絡先
	かいづ〇〇病院	〇〇先生(内科)	0584-〇〇-△△△△
	海津●●クリニック	●●先生(循環器科)	0584-〇〇-△△△△

◆普段の生活

介護区分	要支援2	歩行	寝たきり	車椅子	補助歩行	自力歩行
会話	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可	食事	<input checked="" type="radio"/> 経口	介助経口	その他( )	

◆緊急時連絡先

氏名	続柄	住所	電話番号
かいづ じろう 海津 次郎	長男	海津市〇〇町△△ □□番地	090-〇〇〇-△△△△
やまざき はなこ 山崎 花子	長女	海津市〇〇町△△ □□番地	080-〇〇〇-△△△△

※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡します。

時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

# 救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

※状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ…

〇月 〇日 〇〇時〇〇分ごろ

どこで…

施設の食堂で

何をしているとき…

夕食を食べている最中に

どうなった…

突然、意識がなくなった

直近のバイタルサイン

測定時間

〇〇時

〇〇分

意識

清明

声掛けに反応 :  有

・

無

JCS(Ⅲ-100)

呼吸数

20 回/分

脈拍数

60 回/分

血圧

100 / 60 mmHg

体温

36.0 °C

SpO2

90 %

瞳孔

R: 3mm(+), L: 3mm(+)

現在、実施した処置・薬剤など

酸素を2リットル投与して、SpO2は90%を維持

その他、救急隊に伝えたいこと(DNARの話し合い等)

右耳が聞こえにくいので、左側からゆっくり話しかけてください。

かかりつけの〇〇病院の〇〇先生へ連絡済みです。

救急隊から、搬送時に連絡がほしいとのことです。(連絡先:0584-〇〇-△△△△)

# さいごに

これから高齢化率が増加していくことは目に見えて明らかです。また65歳以上の高齢者の救急搬送件数も年々増加し、今後も右肩上がりに増加していくことは確実と言われております。

海津市消防本部では、増加する救急要請に適切・的確に対応するために病気やケガ等を未然に予防するための取り組み『**予防救急**』を推進していきます。

ほんの少しの注意や心がけで、防ぐことのできる救急事故があります。高齢者の方は少しの病気やケガ等で中等症以上（入院）となることが多く、重症化してしまうことがあります。

是非、施設の皆さまにおきましても『**予防救急**』に取り組んでいただき、高齢者の方がいつまでも元気で、安全・安心して暮らしていただけるように、ご協力をお願いいたします。

また、いざという時の対応を、施設の皆さままで確認していただき、施設の皆さまと救急隊がより円滑な連携が行えるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



# 火事・救急は119



◆住所

◆施設名

◆電話番号

◆緊急時の連絡先

◆救急のとき



傷病者の状況

○年齢

○性別

○症状

○意識・呼吸の有無など

◆火事のとき



火災の状況

○出火場所

○燃えている状況

○避難状況（利用者数）

○初期消火の状況など

※緊急時、あわてずに119番通報できるよう、ご活用ください。